

(様式3 - 2)

【学力向上プロジェクトハイスクール用様式】

都道府県名	京都府	番号	26
教育委員会担当者名	大島浩樹		

学校名： 京都府立宮津高等学校
 校長名： 新井孝弘
 所在地： 626-0034 京都府宮津市字滝馬23
 電話番号： 0772-22-2116
 研究担当者： 教頭 加藤 寛

1 学校の概要

(1) 学校の特色

旧制の京都府立第四中学校から数えて、平成15年度には創立百周年を迎えた伝統と歴史を誇る。普通科及び京都府立高校唯一の建築科を擁し、生徒の希望進路実現に必要な学力の養成を学校目標に掲げて、質実と自由を尊ぶ校風を重んじつつ、21世紀に新たな一歩を踏み出した学校である。

(2) 学校概要

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	級数	生徒数	級数	生徒数	級数	生徒数	級数	生徒数	級数
		全日制	普通科	200	5	203	5	201	5		
建築科	30		1	30	1	39	1			99	3
計	230		6	233	6	240	6			703	18
定時制	普通科	13	1	11	1	11	1	5	1	40	4
	計	243	7	244	7	251	7	5	1	743	22

(3) 学校の学習意欲・学力向上に関するこれまでの取組

教育課程

第1学年の数学及び英語における習熟度別講座編成又は少人数別講座編成による授業を実施するとともに、教育課程編成にあたっては、低学年において、国語、数学及び英語に重点的に単位数を配分し、基礎学力の向上を図ってきた。一方、地歴公民及び理科の科目は高学年での重点配分となっている。

新教育課程の編成では、普通科の各類・類型の中に独自のコース制を導入し、類型全員の必修科目と選択科目及びコース独自の科目を設置し、言わば三層構造の教育課程となっている。学習合宿

第1学年では夏季休業中に、第2学年では冬季休業中に実施している。日程は2泊3日程度であるが、長時間の講義や自習等によって、学習習慣の確立に大きく役立っている。

50分7時間授業

平成14年度から全クラス・講座で実施している。学校完全週5日制の実施に伴う実授業時間の減少とそれによる学力の低下を懸念し、次の3つの目標のもと実施してきた。今年度は2年目である。

目標1 進路希望を達成するにふさわしい高い学力の養成

目標2 高校卒業に備える基礎学力の充実

目標3 資格取得及び検定合格への積極的援助

7時間授業は、週4日実施している。

講習

7時間授業を実施するまでは、この7時間目の時間帯を利用して、一部のクラスは全員必修で、また、一般的には希望参加の形で進学講習を実施し、夏季・冬季・春季休業にも連続させていた。

現在は長期休業中に行っている。生徒の登録は次の土曜特別講座と重なっている。

土曜特別講座

本校教員を講師とし、年間15回程度開講している。第1学年は、国語、数学及び英語、第2学年以降はこれらに地歴公民と理科を加えている。部活動との両立の問題を抱えているが、進学を目指す生徒の出席率は非常に高い。

模擬テストの実施

京都府立高等学校実力テストのほか各種業者模試を校内会場で実施し、実施後は各教科で解答解説を行ったり、返却答案のチェック、やり直しノートの提出等によって、やりっぱなしにはしない取組を実践してきた。また、成績資料は各教科で検討を加え、生徒の弱点を明らかにしつつ、以降の学習指導に役立てられるよう配慮している。

読書指導

司書教諭及び図書部が中心となり、読書カード提出の取組を行うとともに、ホームルーム読書の時間を設け、図書館の図書を活用を図り、読書の喜びを体験させる試みを実施している。

(4) 教育課題

本校指導の重点に謳っている「希望進路の実現と共生の時代を生きる力の育成」が本校の基本的な教育課題であるが、とりわけ普通科の中で学力充実コースとも言われる類である第 類の学力充実が緊急の課題であろう。

2 研究の概要

(1) 研究主題

上記1(4)の教育課題を踏まえ、従来から推進してきた「授業を大切に」という本校教育の基本的な視点を敷衍する方向で、フロンティアハイスクール指定に係る研究主題を「授業の充実による学力向上の方策を探る」こととした。

(2) 研究のねらい

学力の充実向上は、日々営まれる地道な教育活動に待つところが大きいが、そのような教育活動の根幹をなすのは1時間1時間の授業である。その充実なくしては学力向上の実は期待できず、また、希望進路の達成もあり得ない。教員の資質向上の観点、学校評価の観点等から上記研究主題に迫ってみたい。

(3) 研究組織

フロンティアハイスクール担当者会を中心に研究を企画し、分掌、教科及び学年が協力して推進する体制をとる。そのため、担当者会のメンバーとして関係分掌の部長を充てた。

担当者会のスタッフは以下のようである。

校長 新井 孝弘
教頭 加藤 寛
教諭 京崎 秀樹(教務部長、数学)
教諭 矢野 誓作(進路指導部長、英語)
教諭 岡野 英志(第1学年部長、英語)
教諭 小谷 千弘(司書教諭、地歴公民)
教諭 岡田 泰行(教務部、理科・情報)
教諭 高尾 幸弘(進路指導部、数学)

(4) 3年間の計画

平成15年度

教員の意識の向上を図り、今日までの本校の学力向上の取組を総括し、さらに学力を向上させるための課題を明らかにする。

平成16・17年度

15年度の課題の整理を踏まえ、特に普通科第類の生徒の学力向上の方策を探り、他の類や類型、建築科へも及ぼすこととする。

3 本年度の取組

(1) 研究の実際と実践の内容

授業への教員のベル着

実質的な授業時間を確保し、授業の開始・終了のけじめをつけさせ、授業秩序を維持するための一つの重要な取組と位置づけている。授業開始のチャイムの数分前には職員室を出て教室に向かうということである。

授業のデータベース化

データサーバを活用し、年間学習指導計画その他授業に係るデータの共有化を図るため実施

している。また、本校では授業の映像化にも取り組んでいる。全員の授業を各1時間(50分)フルに録画し、各教科や教員個人の研修に役立てている。

一般授業公開

本校の平常の授業を広く地域住民、中学生、保護者等に公開することによって、本校教育への理解を促進し、開かれた学校づくりに結びつけ、さらには中学生の進路選択の一助となることを願い、加えて本校教員の指導力の一層の向上を図ることを目的として、平成15年11月24日に実施した。

特別な時間割を用意せず、平常の時間割による授業を全クラス・講座で公開した。参加者は一般45名、中学生22名以上で一定の成果を収めた。参加者には評価アンケートをお願いし、特に授業については全体的な評価と個々の授業の評価の双方を質問した。結果の一端は以下のとおり。

授業についてどう思われたか(全体的に)

大変良い	6
良い	17
普通	3
あまり良くない	0
良くない	0
宮津高校に興味を持たれたか	
はい、かなり	8
はい、まあまあ	15
いいえ、あまり	0
いいえ、まったく	0
進路選択の参考になったか	
とても参考になる	4
参考になる	3
参考にならない	0
今後も公開授業があればよいか	
はい	25
いいえ	0

教員研修

進路指導部の企画によって、2回の教員研修を行った。

まず、小論文の概要と指導をテーマに、外部講師による入試問題の分析、小論文添削指導の研究と添削事例研究を実施した。

また、問題作成能力と教科指導力の関連を重視し、本年度は数学と英語の問題作成の背景や手法を学ぶというテーマで実施した。

教育課程の工夫

1(3) を参照。

授業秩序の確立

生徒指導部の主導によって、遅刻及び途中抜け防止のための立ち番又は巡回指導を実施して、教員のベル着と合わせた授業時間の確保を図り、同時に携帯電話の校内持ち込みを禁止することで授業秩序の維持を目指した。特に、携帯電話の持ち込み禁止については、第1学年での指導を徹底し、持ち込んだ場合は、電話本体の一時預かり、保護者への返却を原則としている。

また、教務部では、自習を極力避けるため、専任の時間割変更係を置き、出張・年休に備えるとともに、各教科の協力により、急病等による欠勤に対しても、自習課題の準備や監督の体制がとれた。

学習への動機付け

特に第1学年の生徒に対し、職業適性・学問適性検査（R-CAP）及び個性検査（エゴグラム）を実施し、その結果に基づいた自己理解を踏まえて第2学年以降の類型・科目の選択を行わせた。

同時に年間5回程度の学習時間調査を実施、1週間を通した学習時間を学習内容ごとに生徒一人ひとりに把握させ、家庭学習習慣の確立を目指した。

読書指導については、1(3)を参照。

学習合宿については、1(3)を参照。

(2) 教材、資料等の作成状況

教材については、各教科の協力により、従来行ってきた学習指導をより一層充実させるため常に研究を進めている。年間学習指導計画と併せて、各教科の財産づくり＝授業のデータベース化という視点から印刷物又は書籍類の形での蓄えがなされている。

資料については、本校で本年度新たに作成したものはないが、各教科会議等の場で、国立教育政策研究所の評価規準の例について周知を図り学習を進めた。

4 研究に対する評価

(1) 研究の成果

授業への教員のベル着

本年度以前からの取組もあり、本校の「授業第一主義」の方向は教職員の共通認識となってきた。これは、時間的な面のみを意味するものではないが、時間の確保は授業充実の出発点であり、今後も継続して意識の改革を図っていく必要がある。

授業のデータベース化

データサーバの活用は、LAN上での成績処理からスタートした。考査成績の処理、各学期

末成績の処理、通知票の作成、生徒指導要録の作成等のメニューが出来上がっている。

年間学習指導計画のサーバへの登録も着実に進んでいる。授業のビデオ撮影については全教員について終了した。

一般授業公開

ありのままを公開することができた点をまず評価してよい。授業は本来公的な性格をもつものであり、公開は原則であるが、制約を全く設けない形での授業公開が成功したのは注目しておいてよい。部外者の教室内入場による緊張感の中で、日頃の授業を振り返ることができ、指導力向上に資するところが大きかったと言える。

教員研修

A O入試等への対応は必ずしも十分ではない。今回の研修で小論文入試の実態と対策を学び、また、問題作成の要諦を知ることによって、教員の意識は大きく変化したと考えられる。

教育課程の工夫

7時間授業の実施によって、放課となる時刻は16:20を過ぎる。部活動の時間が圧迫されていることは否めないが、部活動の加入率は68.4%と高く、学習との両立を図っている生徒が多いことが窺える。

授業秩序の確立

携帯電話の指導は、本年度も確実に行われており、校内では、少なくとも教員の面前で公然と携帯電話を使用する状況はないと言ってよい。この指導は携帯電話が出回り始めた時から行っており、宮津高校の最も基本的な指導の一つと言える。

学習への動機付け

読書指導に関わって、図書館の利用状況には評価すべき点がある。図書の貸し出し状況、読書カードの提出状況にも見るべき点がある。学習意欲を喚起するという点からの検証は未だ行っていない。

(2) 問題点及び今後の課題、16年度以降の改善策

授業で養成される学力の一つの要素として、目に見える学力という観点を見ると、第1学年の生徒について学力に一定の伸びを確認することができる。ただし、昨年度の第1学年と比較すると伸び率はやや低い。問題点及び今後の課題として確認しておく必要がある。

一般授業公開は一定の成果を収めたが、事前又は事後の授業研究の不足は否めない。課題として指摘しておく。年間学習指導計画の様式の改善も必要であろう。平成16年度以降の改善策の一環としても挙げておく。